

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

2021年7月13日 No2 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

「少人数学級をめざす北海道スタート集会」開催

少人数学級の必要性を学び、さらなる前進を

7月11日、「少人数学級をめざす北海道スタート集会」をリモートで開催し、全道から約50名が参加しました。集会では、「少人数学級化を求める教育研究者有志」のメンバーであった本田由紀さん（東京大学大学院教授）から「少人数学級の必要性」について学びました。その後、北海道連絡会のとりくみ提起や全道交流が行われ、今年も頑張る決意がわいた集会となりました。

◆本田由紀さんの講演とクロストーク

私は日本の教育の特徴は、「垂直的序列化」（能力：格差と競争）と「水平的画一化」（態度・資質：スタンダード、校則）の2つだと考えています。それらは、児童生徒の出身家庭の社会階層に基づく格差と排除を生んでいます。文科省は、学力テスト、道徳の教科化、大学入試改革などを次々と学校に求め、学校と教師は疲弊しています。教育政策で作られた「高学力」は、社会的平等化にも、経済発展にもつながっていません。



本田由紀さん

35人学級は国際的にみれば少人数学級とは言えません。学級あたりの児童生徒が多いことが垂直的序列化・水平的画一化・教員の過重労働の背景要因になっています。これからの日本の教育は、水平的多様性（個別学習と協同学習の組み合わせ、校則等は最小限）を求める方向にすすむべきです。

この後、保護者の伊藤賢太さん、向静子さん、高校教員の内田耕平さんからの質問に対し、本田さんから答えいただきました。

◆北海道連絡会のとりくみ

事務局からは、今年の北海道連絡会のとりくみ・予算案が示され、コロナ禍であっても全道各地で工夫してとりくむことが提案されました。具体的には、街頭宣伝、商店街への依頼、署名の郵送など、各地で可能なとりくみを展開し、少人数学級のさらなる前進、教育費の無償化、教員定数改善など要求の前進をめざします。この間とりくんだ「えがお署名」は、全道で5,638筆、全国で80,750筆になり、文科省に提出しました。事務局として、少人数学級、特別支援学校の設置基準、給付奨学金の3つの意見書案を全道の市町村に送り要請します。

教育全国署名 全道の目標 6万筆（7月～11月末）12月集約（最終は1月）

◆全道交流から

- ・秋月さん（新婦人）：昨年、教育研究者有志の署名、教育全国署名にも積極的にとりくむ。道教委と少人数学級・生理用品の貧困問題でZOOM懇談を行いました。
- ・山口さん（釧路）：えがお署名をとりにくむ分会が1.5倍になりました。管内の校長会と懇談を行いました。
- ・遠藤さん（宗谷）：教員免許更新制反対の「ひとこと」が多数集まり、3割は組合員以外でした。
- ・江口さん（高教組北見）：先日、支部で相談し、今年も街頭宣伝、関係団体への依頼を行います。
- ・土井さん（道退教）：コロナ禍の中、会員同士のつながりを回復し、署名にもとりくみます。

